

街と港を繋ぐ橋上駅 ～JR 四日市駅の再開発案～

伊藤 涼太

¹ 高知工科大学 システム工学部 建築・都市デザイン専攻

指導教員 重山 陽一郎

1. 対象敷地

四日市は三重県の北部に位置する街であり人口約31万人、産業都市である名古屋からも電車で1時間と近くベッドタウンにもなっているため駅の利用者は1日約5万人である。また、四日市港を中心に栄えてきた日本有数の臨海工業都市である。

四日市には主要駅が2つ（近鉄四日市駅、JR 四日市駅）ある。この2つの駅の間にある中央道りが四日市市による「ニワミチ四日市」のプロジェクトにより再開発され回遊性の高い空間が作られる予定である。



図1 JR 四日市駅前

JR 四日市駅の港側には納屋防災緑地や稲葉翁記念公園があり、四日市みなとまちづくり協会により「よっかいち BAURA」のプロジェクトにより、みなとまちづくりが計画されている。



図2 納屋防災緑地

中央道りから港にかけて緑が繋がっているように見えるが線路により分断されている。また、港側に行くには大きく迂回する必要があり徒歩では少し面倒な距離になるため港側に賑わいが少ない原因になっているのではと考えた。



図3 対象敷地図 出典：国土地理院地図

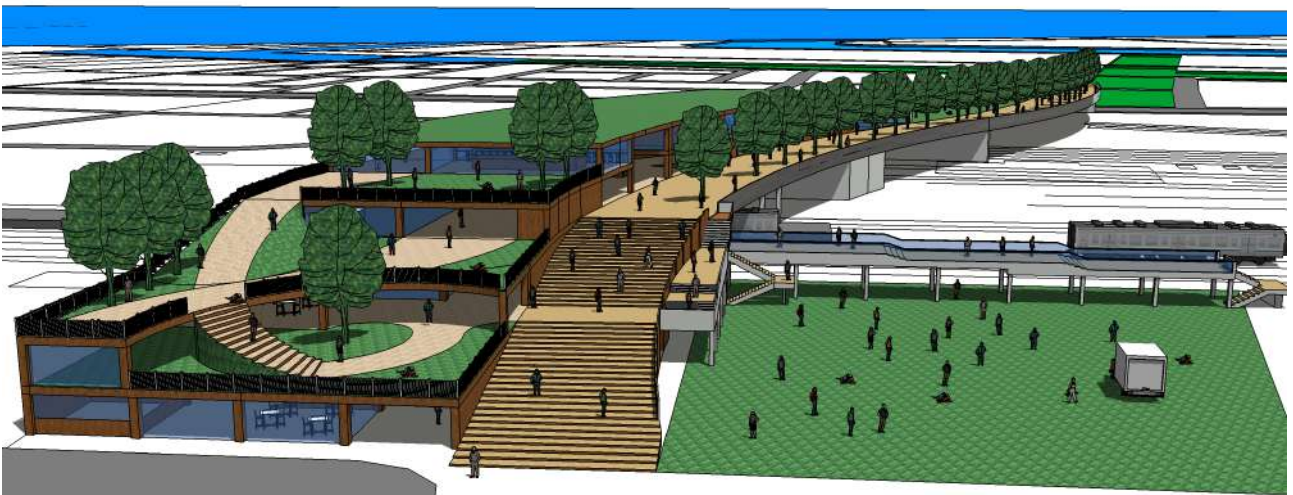


図4 中央通りから見た全体図

2. 目的

港町として魅力ある四日市にするために街と港を繋ぐ橋上駅を提案する。

3. 設計方針

ただ、街と港を繋ぐだけではなく第二の賑わいの場として駅を再開発するために、三つの機能を考える。

- ①街と港を繋ぐため歩道橋としての機能
- ②利用しやすい駅舎としての機能
- ③人が集まる公園・施設としての機能

4. デザインの提案

① 街と港を繋ぐ歩道橋としての機能

駅舎を設計するにあたって駅ビル型と橋型を比較検討する。評価するポイントは駅であるか理解できるかどうか港までの繋がりを感じられるかである。表1から橋型の駅舎が良い結果となった。



図5 上空から見た図

橋上駅を建てて街路樹を植えることで中央通りから防災緑地まで緑が続き街と港の繋がりを創出している。

表1 駅の比較検討表

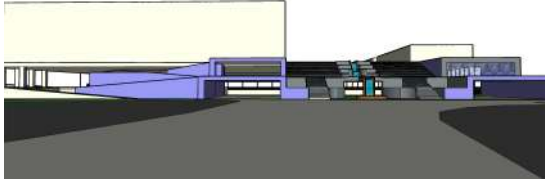
	駅ビル型	橋型
中央通りから見た図		
駅であるか理解できる	電車が通るのが見え駅だと理解しづらい	電車が通るのが見え駅であると分かりやすい
街と港の繋がりが感じられる。	ビルにより視線が遮られ終着地のようにあり街と港の繋がりが感じられない。	中心からずれた位置で橋がかかることで街と港の繋がりが感じられる。
評価	×	○



図6 中央通りから見る

図6より並木が連続していることで港の方向に賑わいの空間が繋がっていることが視覚的に理解できる。

また、大階段の右側を建物を建てずに広場にしたことで中央通りから電車の行き交いが見え線路の上をわたる橋であることも理解しやすい。

さらに、街路樹は休息や待ち合わせの場として利用されることも考えられ、季節により橋が衣替えをできるように桜などにする。



図7 橋上から中央通り方向を見る

港から橋を歩いてくると並木の間から中央通りを見ることができる。

② 利用しやすい駅舎としての機能

現在、図8の左側に駅舎があり改札を通り高架橋を渡りホームに行くまでの動線が長い。



図8 駅の現況

利用しやすい駅舎を実現するために、駅構内の設計には細かな工夫が施されている。特に、改札からホームまでの動線をできるだけ短縮することを意識し、利用者がスムーズに移動できるように配慮している。



図9 南から駅舎を見た図

図9のような設計により、利用者は電車が来るまでの待ち時間をホームで過ごすのではなく、駅構内に併設された商業施設で有意義に時間を使うことができるようになっている。図10より、単なる通過点としての駅ではなく、買い物やリラクセスの場としても駅を楽しむこと

ができるため、利用者の利便性や満足度が向上する。

また、駅構内での滞在時間が増えることで、商業施設にとっても新たなビジネスチャンスが生まれ、駅全体が地域の活気ある交流の場として機能するようになる。こうした設計思想は、現代の駅に求められる多様なニーズに応えるものとなっている。



図10 改札内

図10のように改札は、多くの人が行き交う場所であり、また待ち合わせ場所としても利用されることが多いため、できるだけ広い空間を確保することが重要である。そのため、通行の妨げにならないように十分なスペースを設けることで、人々がスムーズに移動できるように配慮されている。

また、図11のように改札の周囲にはさまざまな施設が配置されていることが多く、それらの施設へ人々の流れを促す工夫も求められる。そこで、改札の周辺をガラス張りにするすることで、視界が開け、施設の内部の様子が一目でわかるように設計されている。このようなデザインによって、利用者が施設内の雰囲気や提供されているサービスを視覚的に認識しやすくなり、「中に入ってみよう」「少し立ち寄ってみよう」といった興味や関心を引き出す効果が期待される。このように、改札の空間設計には、人々の動線を考慮しながら、周辺施設への誘導を促す工夫が随所に取り入れられている。



図11 橋上駅の位置関係

③ 人が集まる公園・施設としての機能

図 12 のように施設にテラスを設けることで駅の利用者が帰りに少し休憩できるようにした。また、動線を曲線を用いて繋ぐことで施設内の回遊性を高めたデザインにした。



図 12 テラス

図 13 のように広場はできるだけ大きく確保し、多様なイベントが開催できるような設計を採用している。例えば、キッチンカーが並び、訪れた人々が気軽に食事を楽しめるスペースを確保したり、野外ステージを設置してライブやパフォーマンスが行えるような環境を整えたりすることを想定した広さとしている。また、広場に隣接する場所にジムを配置することで、広場を利用する人々が運動前のウォーミングアップやクールダウンを気軽に行えるようにし、スポーツやフィットネスイベントの開催にも適した空間としている。



図 13 広場

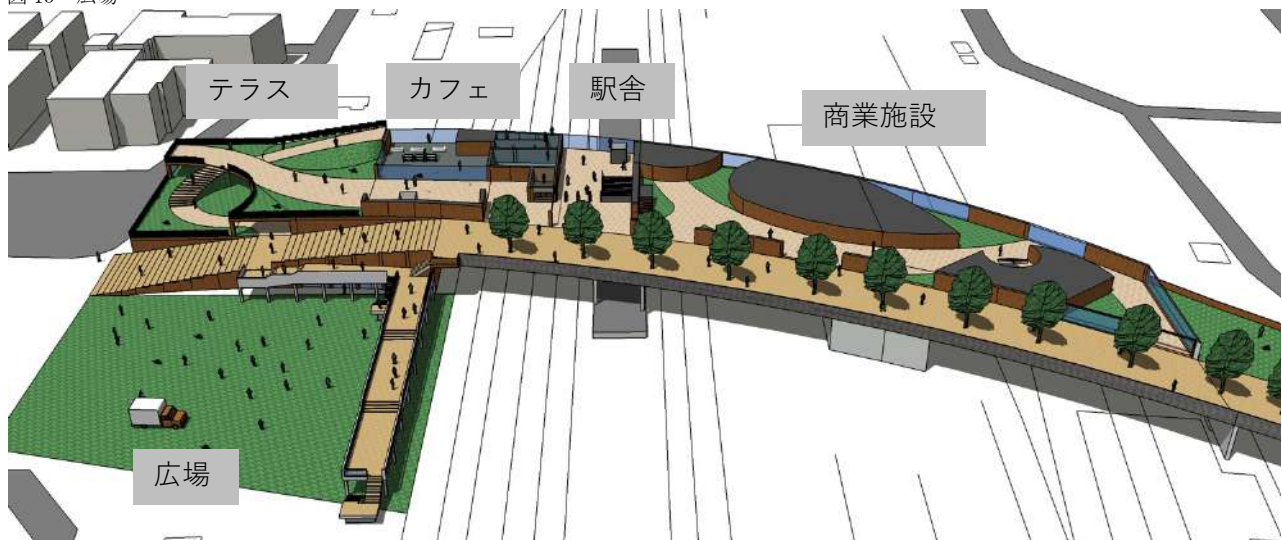


図 16 3階フロアパース

図 14.15 のように各階のテラスからは中央通りが一望できることで街との繋がりを強く意識させる。



図 14 大階段から中央通りを眺めた様子

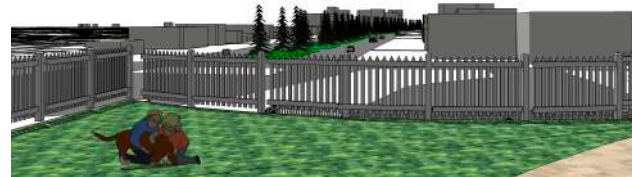


図 15 3階テラスから中央通りを眺めた様子

5. まとめ

本設計により、街と港をつなぐ新たな橋上駅が整備されることで、人や物流の流れがスムーズになり、地域全体の活性化が期待される。この橋上駅は単なる交通手段としての役割だけでなく、新たな賑わいの拠点となり、観光や商業の発展にも寄与する。これにより、四日市は港町としての魅力をさらに高め、歴史や文化を活かしながら、より多くの人々が訪れたいくなるような魅力的な街へと進化していく。

6. 参考文献

- 1) ニワミチ四日市 : <https://niwamichi-yokkaichi.com>
- 2) 駅の利用者数 : https://shingakunet.com/area/ranking_station-users/mie/
- 3) 国土地理院地図 : <https://maps.gsi.go.jp>
- 4) よっかいち庭浦 : <https://baura.jp>